



これは東浦の阿曾という村のむかしむかしの話じゃ。ある日、村の人が田植えをしたたらの一 雨がポツンポツンと降ってきたんじゃ。

それが だんだんひどくなってのー カミナリはなるし 急に空がまっくらになっての その時 突然ゴオーというものすごい音がしたんじゃ。山が爆発したかと 村の人はびっくりしたんじゃよ。

それはのー 山に1000年も住んだ龍が 海に1000年住むために 山をくだいて出てきたんじゃよ。それはそれは 恐い目をしとったというこつちゃ。



「あぞのりゅうじん」

阿曾の民話

1/3



大雨で山はくずれ 田んぼや家もおしつぶされ シベリヤまで押し流された家もあったそうな。そのあとは 雨が降らず 田んぼや畑はカラカラにかわいてしもうてのーその日の食事にも困ったんじゃよ。

そこで村人たちは相談して

「ウーン そうじゃ あの龍にお願いしてみよう。岡崎山のほら穴に住んでいるという龍のところへ」

なむ はんにはらみたしん……お経を唱えながら舟でたのみにいったんじゃよ。ほら穴に お酒や大事なお米をおそなえしてな。

「どうか 雨を降らして下さい。」

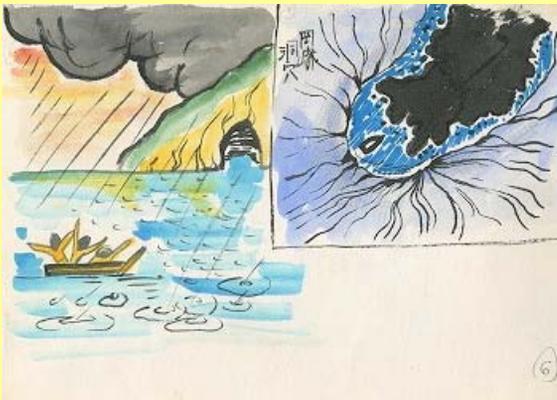
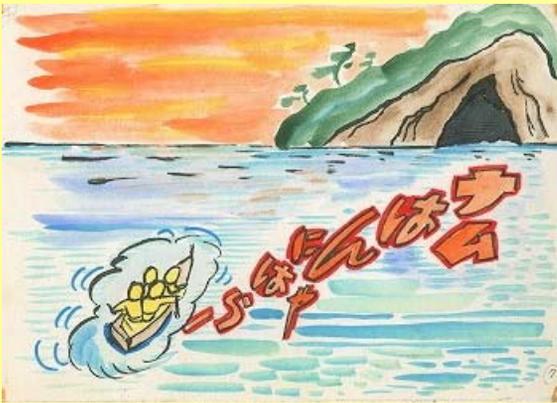
みんな舟の中から ほら穴をのぞきこんで手を合わせたんじゃよ。

そしたら不思議になー その時突然雨が降ってきたんじゃよ。

「これは きっとここに住む龍は 龍神様にちがいない。」

「龍神様ありがとう」

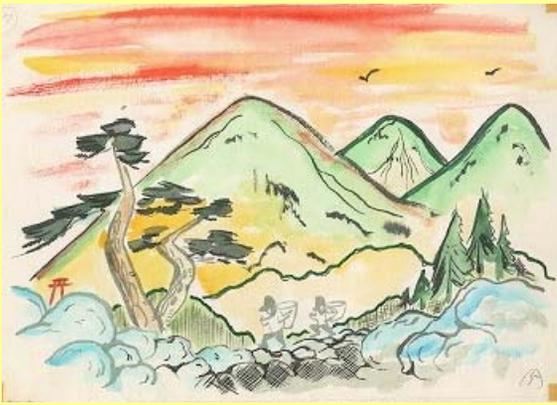
みんな大変感謝してなー



「あぞのりゅうじん」

阿曾の民話

2/3



龍が山から出て来た時 海に落ちた重い石を みんなでテゴに入れて 村の神社の境内にはこんだんじゃよ。なんでかちゅうとな 前の龍が現れた時の大水でな 神社だけがおし流されずにすんでの そこにいた人達は みんな助かったんじゃ。それも龍神様のおかげじゃと思ったんじゃ。

それから 阿曾では日照りの時 龍神様にたのんで雨を降らしてもらったというこっちゃ。おかげで阿曾という村はりっぱにたちなおっての一人に感謝したり 助け合う気持が強くなったというこっちゃ。



「あぞのりゅうじん」

阿曾の民話

3/3